

## 学生の確保の見通し等を記載した書類

### 1. 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

#### (1) 定員充足の見込み

「食と健康」及び「生命と環境」は、人類にとって最も普遍的で重要な課題であり、地域社会のみならず国際社会においても大きな関心を持たれている分野である。本学の立地する山梨県においても、農業及び食品産業は県の主幹産業であり、これらの分野を支える人材育成に対する関心は高く、県の行政機関、農業団体、及び食品製造業からは、農学系高度専門職業人を養成する大学院設置に関する要望書が出されている（別紙資料：山梨県知事及び山梨県商工会議所連合会からの「農学系大学院の設置に関する要望書」参照）。

以上の社会的ニーズを踏まえ、修士課程「生命環境学専攻」は「生命・食・環境・経営」分野の教育を行い、地域の活性化や我が国の発展、さらにはグローバル化社会へ貢献できる農学系高度専門職業人を養成するため、その入学定員を45名とする。

#### ① 学内進学者（生命環境学部）

生命・食・環境・経営をテーマとする農学系大学院である生命環境学専攻に対する学生の関心は高く、本学の生命環境学部の卒業予定者の多くが、同専攻への進学を希望している。平成27年2月に実施した生命環境学部の学生（3年生）を対象とした「大学院進学希望調査」（表1、回答123名）によると、生命環境学専攻のいずれかのコースに興味があると答えた学生は96名いた（Q1、項番1～3）。この96名中42名（44%）が当該コースに「進学したい」（Q2、項番1）、25名（26%）が「どちらかというに進学したい」（Q2、項番2）と答えている。「どちらかというに進学したい」と回答した学生が進学する確率を50%とやや厳しく仮定した場合、「どちらかというに進学したい」と回答した25名中の進学者数は $25 \div 2 = 12.5$ となる。よって、学内からの生命環境学専攻への入学者（以下、「学内進学者」という。）の人数は、 $42 + 12.5 = 54.5$ 名と見積もられる。生命環境学部の定員は130名であるので、54.5名が進学した場合の進学率は $54.5 \div 130 = 0.42$ 、すなわち約42%となる。

学内進学者数（生命環境学部）	54.5
----------------	------

大学院進学の志望理由としては、Q3の回答より、「興味のある分野の研究をしたい」（42%）、「学部で身に付けた知識・技能を更に深めたい」（33%）、「地元へ貢献したい」

(10%)、「広い世界で仕事・研究ができる」(6%)、「大学等の教育機関、企業等で研究・開発に携わりたい」(4%)であった。この結果は、生命環境学部で身に付けた知識・技能を更に深め・鍛えるために生命環境学専攻に進学したいという学生の強い意向を示している。

表1 大学院進学希望調査（生命環境学部）

Q1 生命環境学専攻の一番興味のあるコースはどれですか。												
学年	項番	項目	生命工学科		地域食物科学科		環境科学科		地域社会システム学科		合計	
3年	1	バイオサイエンスコース	32	86%	1	3%	2	7%	0	0%	35	28%
	2	食物・ワイン科学コース	1	3%	22	76%	2	7%	2	7%	27	22%
	3	環境社会システムコース	0	0%	1	3%	23	77%	10	37%	34	28%
	4	興味なし(就職・他大学進学等)	4	11%	5	17%	3	10%	15	56%	27	22%
		合計	37		29		30		27		123	100%

Q2 Q1で回答したコースに進学したいと考えますか。												
学年	項番	項目	生命工学科		地域食物科学科		環境科学科		地域社会システム学科		合計	
3年	1	進学したい	21	64%	10	42%	10	37%	1	8%	42	44%
	2	どちらかというと進学したい	6	18%	11	46%	6	22%	2	17%	25	26%
	3	未定	6	18%	3	13%	11	41%	9	75%	29	30%
		合計	33		24		27		12		96	100%

Q3 Q2で「1」あるいは「2」と回答した方に伺います。大学院進学に関する動機づけとなる一番の理由はなんですか。												
学年	項番	項目	生命工学科		地域食物科学科		環境科学科		地域社会システム学科		合計	
3年	1	興味ある分野の研究をしたい	13	48%	4	19%	11	92%	0	0%	28	42%
	2	学部で身に付けた知識・技能を更に深めたい	10	37%	8	38%	3	25%	1	33%	22	33%
	3	広い世界で仕事・研究ができる	1	4%	1	5%	2	17%	0	0%	4	6%
	4	地元で貢献したい	0	0%	5	24%	0	0%	2	67%	7	10%
	5	大学等の教育機関、企業等で研究・開発に携わりたい	1	4%	2	10%	0	0%	0	0%	3	4%
	6	その他	0	0%	1	5%	0	0%	0	0%	1	1%
	7	特に理由はない	2	7%	0	0%	0	0%	0	0%	2	3%
		合計	27		21		16		3		67	100%

## ② 学内進学者（教育人間科学部）

教育人間科学部生涯学習課程の卒業予定者の中も、生命環境学専攻への進学を希望していることから、その実態を把握するため、教育人間科学部生涯学習課程学生（3年生）を対象とした「大学院進学希望調査」（表2、回答18名）を行った。その結果によると、

生命環境学専攻のいずれかのコースに興味があると答えた学生が7名いた(Q1, 項番1~3)。この7名中4名が当該コースに「進学したい」(Q2, 項番1)、1名が「どちらかというに進学したい」(Q2, 項番2)と答えている。「どちらかというに進学したい」と回答した学生が進学する確率を生命環境学部と同様に50%と仮定した場合、「どちらかというに進学したい」と回答した1名をもとにした進学者数は $1 \div 2 = 0.5$ となる。

よって、学内からの教育人間科学部生涯学習課程からの学内進学者数は、 $4 + 0.5 = 4.5$ 名と見積もられる。

学内進学者数 (教育人間科学部)	4.5
------------------	-----

表2 大学院進学希望調査 (教育人間科学部)

Q1 生命環境学専攻の一番興味のあるコースはどれですか。

学年	項番	項目	合計	
3年	1	バイオサイエンスコース	2	11%
	2	食物・ワイン科学コース	2	11%
	3	環境社会システムコース	3	17%
	4	興味なし(就職・他大学進学等)	11	61%
		合計	18	100%

Q2 Q1で回答したコースに進学したいと考えますか。

学年	項番	項目	バイオサイエンスコース	食物・ワイン科学コース	環境社会システムコース	合計	
3年	1	進学したい	2	2	0	4	57%
	2	どちらかというに進学したい	0	0	1	1	14%
	3	未定	0	0	2	2	29%
		合計				7	100%

Q3 Q2で「1」あるいは「2」と回答した方に伺います。大学院進学に関しての同期づけとなる一番の理由は何ですか。

学年	項番	項目	合計	
3年	1	興味のある分野の研究をしたい	5	100%
	2	学部で身につけた知識・技能を更に深めたい	0	0%
	3	広い世界で仕事・研究ができる	0	0%
	4	地元で貢献したい	0	0%
	5	大学等の教育機関、企業等で研究・開発に携わりたい	0	0%
	6	その他	0	0%
	7	特に理由はない	0	0%
		合計	5	100%

③ 学外入学者 (国内の他大学・社会人)

国内の他大学からの入学者及び社会人の入学者 (以下、「学外入学者」という。) の人

数を、本学大学院修士課程の工学系専攻における直近「5 ヶ年平均の入学者実績」（表 3）に基づき推算した。

表 3 工学系専攻における直近 5 ヶ年平均の入学者実績

	学内進学者	学外入学者 (他大学・社会人)	国外入学者 (留学生)
入学者数	210	20	9
学内進学者 に対する割合	100%	9.5%	4.3%

工学系専攻の実績では、学外入学者数は5 ヶ年平均で 20 名であり、学内進学者数（主に工学部から進学）は 210 名であった。すなわち、学内進学者に対する学外進学者の割合は 9.5% である。したがって、この比率を①より見積もられた生命環境学部からの学内進学者数 54.5 に当てはめると、学外入学者数は 5.2 名と推算される。

生命環境学専攻において、期待できる学外入学者数を過去の実績と最近の調査に基づき、以下のように積算する。

現行の生命工学専攻ワイン科学コース（ワイン科学特別教育プログラムも含む）への学外入学者数は、平成 19 年度から現在までで 16 名（年平均 2 名）が他大学からの入学者である。このことは、新専攻の食物・ワイン科学コースにおいても同様に年 2 名程度の学外入学者が期待できる。

平成 26 年 11 月～平成 27 年 1 月に実施した企業アンケート及び企業訪問調査結果（表 4、Q 3）によると、生命環境学専攻への入学に関心のある社会人は、バイオサイエンスコースが 2 名、食物・ワイン科学コースが 3 名、地域環境マネジメントコース（旧 環境社会システムコース）が 2 名あった。このうちの半数が入学するとしても、各コースに 1 名ずつで、合計 3 名の社会人入学生が期待できる。

よって、生命環境学専攻への学外入学者数として 5 名が期待できる。

学外入学者（他大学・社会人）数

工学系専攻のデータに基づく推算値	5.2
実績と調査に基づく積算値	5

表4 社会人の新専攻への入学意向（アンケートと訪問調査の総合数）

Q1 回答者が在籍する事業所の業種

No.	カテゴリ	件数
1	農業・林業	3
2	漁業	0
3	鉱業・採石業・砂利採取業	0
4	建設業	0
5	製造業	6
6	電気・ガス・熱供給・水道業	0
7	情報通信業	4
8	運輸業・郵便業	0
9	卸売業・小売業	3
10	金融業・保険業	2
11	不動産業・物品賃貸業	0
12	学術研究・専門技術サービス業	2
13	宿泊業・飲食サービス業	0
14	生活関連サービス業・娯楽業	0
15	教育・学習支援業	2
16	医療・福祉	1
17	複合サービス業	2
18	サービス業(他に分類されないもの)	0
19	公務(他に分類されるものを除く)	0
20	その他	0
	無回答	0
	合計	25

Q2 大学院への入学意向

No.	カテゴリ	件数
1	入学したい	3
2	機会があれば入学したい	4
3	将来、必要を感じた場合には入学を考える	5
4	大学院で特定の科目のみ受講したい	6
5	わからない	5
6	その他	1
7	将来的にも大学院入学には興味がない	1
	無回答	0
	合計	25

Q3 興味のあるコース(Q2で No.1~ 2の回答者)

No.	カテゴリ	件数
1	バイオサイエンスコース	2
2	食物・ワイン科学コース	3
3	環境社会システムコース	2
4	その他	0
	無回答	0
	合計	7

#### ④ 国外入学者

外国人留学生などの国外からの入学者（以下、「国外入学者」という。）の人数を、本学大学院修士課程の工学系専攻における直近「5 ヵ年平均の入学者実績」（表 3）に基づき推定した。工学系専攻では、学内進学者数 210 に対する国外入学者数は 9 で、その割合は 4.3%となる。したがって、①より見積もられた生命環境学部からの学内進学者数 54.5 を工学系の実績に当てはめると、国外入学者数はその 4.3%の 2.3 名と推算される。

生命環境学専攻において、期待できる国外入学者数を過去の実績と最近の調査に基づき、以下のように積算する。

経済成長著しいアジア圏では、食料の量産、品質向上への要求はもとより、環境保全や食の安全への関心も高まっている。この分野をリードする日本への留学を希望する者は今後も増えていくものと考えられる。特に、バイオサイエンスコースの発生工学分野が人材育成目標としている生殖補助医療管理胚培養士、細胞培養士、臨床細胞培養士、実験動物技術者などのアジア圏における需要は増えていくものと予想される。従って、アジア圏の学生が発生工学の技術修得のために本専攻に留学生として入学する可能性は大きい。発生工学の教育を担当予定の若山教授の研究室（理化学研究所）で学んだ留学生の実績は、平成 14 年から平成 20 年の間に、ベトナムから 2 名、中国から 1 名、韓国から 1 名、インドから 1 名である。よって、発生工学分野だけでも、毎年 1 名は留学生の入学が期待できる。

中国では現在、ワイン産業に大きな注目が集まっており、瀋陽薬科大学ではワインに関する学科が新設されている。このようにアジアの新興国ではワイン科学や製造に関連した教育のニーズが高まっており、今後ワイン製造のみならず、高付加価値の食品生産や食の安全・品質への関心も高まると予想される。これらのアジア圏の大学の卒業生が、より進んだ食物生産のあり方を学ぶため、食物・ワイン科学コースの修士課程に入学することも十分に考えられる。すでに現状でも、毎年 1～2 名の中国やベトナムからの留学生が、ワイン科学を勉強するために山梨大学の修士課程に入学している。山梨大学では、ワイン科学教育の援助をする目的で、瀋陽薬科大学と学術・教育交流に関する大学間連携協定を締結する（平成 27 年 3 月締結予定）。以上の理由により、食物・ワイン科学コースには、毎年 1 名は留学生の入学が期待できる。

大学間交流協定を締結している四川大学、瀋陽薬科大学には本学の国際交流センター長が平成 27 年 3 月に訪問し、生命環境学専攻をはじめとする本学大学院の紹介をするとともに、具体的なキャリアパスを示すなど、進学者を増やすための協力依頼を行っている。また、同じく大学間交流協定を締結しているタイのコンケン大学、中国の上海大

学からも留学生の受入れを検討している。今後、積極的にアジア圏での広報活動を行うことによって、さらなる留学生数の増も期待できる。よって、ワイン科学教育以外でも大学間交流協定に基づく留学生が専攻全体で毎年1名は確保できると考えられる。

また、平成27年2月時点での生命環境学部の教員へのヒアリング調査によると、地域社会システム学科には、現在、平成28年度に修士課程に進学することを前提として、平成27年度からの研究生希望者（ベトナム）が1名いることがわかっている。

よって、生命環境学専攻への国外入学者数としては、工学系専攻のデータに基づく推算値よりも多い4名が期待できる。

#### 国外入学者（留学生）数

工学系専攻のデータに基づく推算値	2.3
実績と調査に基づく積算値	4

#### ⑤ 入学生確保の見通し（上記のまとめ）

生命工学科からの進学者はバイオサイエンスコースへ、地域食物科学科からの進学者は食物・ワイン科学コースへ、環境科学科と地域社会システム学科からの進学者は地域環境マネジメントコース（旧 環境社会システムコース）へ進学するものとして、各コースへの進学者数を積算すると表4のようになる。生命環境学専攻全体では、

（学内進学者（生命環境学部））+（学内進学者（教育人間科学部））+（学外入学者）+（国外入学者）= 54.5 + 4.5 + 5 + 4 = 68

となり、予想志願者数は68である。本専攻の定員45に対する志願倍率は $68 \div 45 = 1.51$ 倍となる。

表5 各コース別 志願者数の積算及 び専攻全体の合計 生命環境学専攻 (定員 45名)	学内進学者 (生命環境学 部)	学内進学者 (教育人間科学部)	学外入学者		合計
			学外 (他大学) (社会人)	国外 (留学生)	
バイオサイエンス コース	24	2	1	1	28
食物・ワイン科学 コース	15.5	2	3	1	21.5
地域環境マネジメン トコース(旧 環境社 会システムコース)	15	0.5	1	1	17.5
協定に基づく入学者	-	-	-	1	1
専攻全体	54.5	4.5	5	4	68

(2) 他大学の農学系大学院修士課程の志願倍率の状況からの考察

農学系研究科（農学府、農学院等）など農学系大学院修士課程を設置している 34 国立大学の志願状況について、各大学の公表データ及び大学評価・学位授与機構の「大学基本情報」を基に、志願倍率を地区別に調査した(表 6)。34 国立大学の農学系大学院修士課程の平均志願倍率は 1.20 倍、また本学近隣の関東（在京大学除く）・甲信越・東海地区の 9 国立大学の平均志願倍率は、1.22 倍であった。本学の専攻「生命環境学専攻」の志願倍率は 1.51 倍であったので、生命環境学専攻の入学定員 45 人は適正であると考える。

表 6 農学系大学院修士課程の地区別志願倍率

平成26年度農学系大学院修士課程志願状況				東京地区を除く関東地区・甲信越地区・東海地区			
	地区別大学数	地区別平均志願倍率	地区別入学定員充足率	地区	地区別大学数	地区別平均志願倍率	地区別入学定員充足率
北海道地区	2	1.33	1.12	関東地区	4	1.21	0.83
東北地区	4	1.08	0.87	甲信越地区	2	1.13	0.97
関東地区	4	1.21	0.83	東海地区	3	1.29	1.02
東京地区	3	1.35	1.04	計	9	1.22	0.92
甲信越地区	2	1.13	0.97				
東海地区	3	1.29	1.02				
近畿地区	2	1.59	1.08				
中国地区	5	1.07	0.87				
四国地区	3	1.05	0.91				
九州地区	6	1.21	0.92				
計	34	1.20	0.94				

(3) 学生納付金の設定の考え方

「国立大学等の授業料その他の費用に関する省令(文部科学省令第 16 号)」に準拠

(4) 学生確保に向けた具体的な取組状況

学生確保に向けた取組を全学的に行うこととし、具体的には以下の取組を予定している。

ア 大学院説明会の開催

大学院設置認可申請手続きと同時に、学内の学部学生を対象に大学院生募集に係る大学院説明会を開催する。学部ガイダンス（4月、9月）時のほか、進路相談時間を随時設定し、専攻設置の構想、養成する人材像として「何が身につき、何ができるようになるのか」など具体的な説明を行う予定である。

イ 大学ホームページ等を活用した広報活動、新聞広告による情報提供の充実

①本学学内からの学生確保のみならず、学外からの進学者、国外からの留学生



の確保のため、大学ホームページ上に専用のバナーを設置し、日本語、英語による情報発信を行う予定である。

②留学生確保のため、生命環境学部紹介ビデオの英語版を作成、ホームページに掲載する。

③「平成 28 年度設置予定」、「設置認可申請中」、「予定であり、変更があり得る」旨を記載したうえで全国紙、地方紙に新聞掲載広告を行う予定である。

④平成 27 年度に計画している生命環境学部教員の紹介ラジオ番組において、平成 28 年度開設予定である生命環境学専攻を案内する予定である。

## ウ 留学生確保のための説明

毎年開催される日本学生支援機構主催の海外で開催される「日本留学フェア」、及び国内で開催される「留学生のための進学説明会」において概要説明する他、学内で開催する「留学生懇談会」などで留学生に説明し、母国に情報を発信してもらう。また、これまで締結している交流協定校からの来学者、又は本学教職員が訪問する際には、新設の生命環境学専攻について積極的に広報する。

その他、大学間交流協定を締結している四川大学、瀋陽薬科大学（H27 年 3 月締結予定）には本学の国際交流センター長が平成 27 年 3 月に訪問し、生命環境学専攻をはじめとする本学大学院の紹介をするとともに、具体的なキャリアパスを示すなど、進学者を増やすための協力依頼を行っている。また、同じく大学間交流協定を締結しているタイのコンケン大学、中国の上海大学からも留学生の受入れを検討している。

## 2. 人材需要の動向等社会の要請

### (1) 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）

山梨大学（以下本学）は、国立大学法人として、「地域の中核、世界の人材」というキャッチ・フレーズを掲げて、諸学融合（医工農融合・文理融合）を理念とした教育を推進している。地域の産業・文化・教育・医療の中核を担うことのできる、高い知的能力と道德意識をもち、国際的にも活躍できる人材の育成を重要な使命としている。この使命を達成するために、高度な研究を推進するとともに、先端領域の世界的研究拠点を形成し、その成果を広く社会に提供することで、地域を活性化させ、わが国並びに世界の発展に寄与できる人材を育成することを目標として努力を重ねている。

本学の立地する山梨県は「未来につながるはつらつとした農業の振興」を政策に掲げる果樹栽培が盛んな農業県でもあることから、平成 24 年度には、地域に根ざ

し世界を見据えた農学系新学部「生命環境学部」を開設した。生命環境学部は「持続的な食料の生産と供給による地域社会の繁栄を実現するために必要となる、生命科学、食物生産・加工、環境・エネルギー、地域経済・企業経営・行政に関し広い視野をもつ人材を、自然と社会の共生科学に基づき養成する」ことを基本理念とし、「生命・食・環境・経営」に関わる学士課程の教育を行っている。「食と健康」及び「生命と環境」は、人類にとって最も普遍的で重要な課題であるが多様で複雑な側面を有しているため、生命科学や環境科学などの自然科学のみならず政治・経済や経営などの社会科学による総合的な取り組みが必要な分野である。よって、これら多様で複雑な課題を解決に導く技術革新を行い、今後も社会を持続的に発展させていくためには、より高度な知識と先端的な技術を修得した人材を育成することが必要である。このような高度な専門的知識と技術を身につけた人材を育成するためには、大学は「知の拠点」として、最新の先端科学技術に対応した大学院（高度人材育成拠点）を整備しなければならない。

よって、本学は、諸学融合（医工農融合・文理融合）の理念に基づき、「食と健康」及び「生命と環境」に関わる課題に対して実践的に取り組み、これを解決に導くことができる高度専門職業人を養成するために大学院修士課程「生命環境学専攻」を設置する。

平成 28 年度 4 月に設置予定の農学系修士課程の名称は「生命環境学専攻」である。本専攻は大学院医学工学総合教育部に修士課程の専攻として設置し、学位は修士（農学・学術）とする。本専攻はバイオサイエンスコース、食物・ワイン科学コース、地域環境マネジメントコースの 3 つのコースからなる。

バイオサイエンスコースでは、生命科学及び生命工学に関する教育研究を行い、修士（農学）の学位を授与する。

食物・ワイン科学コースでは、ワイン科学に関する教育実績に根ざした食品の原料生産、加工・販売、食の安全から経営まで含めた教育研究を行い、修士（農学）の学位を授与する。

地域環境マネジメントコースでは、環境・エネルギー、地域経済・企業経営・行政に関する教育研究を行う。本コースは、環境科学系と社会科学系の 2 分野を農学で結びつけた文理融合の学際コースであるため、修士（学術）の学位を授与する。

#### ①バイオサイエンスコース人材育成目標

微生物、酵素、細胞などの生物機能を探求する生命科学に関する知識、及びその機能を産業に応用するための生命工学の技術を修得し、食品、医薬、医療、及び環境などに関連するバイオ産業等において活躍できる高度専門職業人の養成を目標とする。

#### ②食物・ワイン科学コース人材育成目標

付加価値が高く持続的な食物生産のあり方を、ワインをモデルとしながら科学的に探求し、食品産業を原料生産、加工・販売、安全から経営まで、第6次産業として多面的に見渡すことができる高度専門職業人の養成を目標とする。

### ③地域環境マネジメントコース人材育成目標

農学を基盤とした自然科学と社会科学の文理融合的アプローチにより、「食と健康」及び「生命と環境」に関わる複雑で多様な諸課題を解決し、地域の持続的発展を実現していくための政策・企画立案などに貢献できる高度専門職業人の養成を目標とする。

## (2) 上記(1)が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

国の重要施策として地方創生が掲げられる中、本学の立地する山梨県においては主要産業である農業の活性化が課題となっている。したがって、大学は「地域の知の拠点」として、高度な専門的知識と技術を身に付けた人材を育成し地域に貢献する必要がある。これまで山梨県には農学系の修士課程は存在しないことから、修士(農学)の学位を授与する新専攻「生命環境学専攻」に対する地域の期待は大きく、地方自治体や地域の企業から農学系修士課程設置へ向けた要望書が出されている(別紙資料:山梨県知事及び山梨県商工会議所連合会からの「農学系大学院の設置に関する要望書」参照)。また、前身の修士課程生命工学専攻の修了者の大半は県外の事業所に就職し、我が国を支える中核的人材として活躍していることから、新専攻の修了生に対する社会からのニーズは、県内外を問わず高いと予想される。特に技術系では学部卒よりも修士修了者に対するニーズが高い傾向があり、大学院を修了した高度専門職業人が地域の中核として地域振興のために活躍することが期待されている。

新専攻の修了者に対する企業等の採用の意向を明らかにするため、山梨県内企業88社、県外企業129社に対し、専攻の趣旨及びコース概要を説明した上で、各コースの修了者を採用したいかアンケート調査を平成26年12月～平成27年1月にかけて実施した(別紙参照)。

採用意向調査では、専攻の趣旨及びコース概要を調査対象企業に明示した上で、社会、企業等が求める人材を養成する専攻となっているか、本専攻修了者に対する企業等の採用などの需要があるかなど、217社(県内88社、県外129社)に対し、平成26年12月～平成27年1月にかけて実施した。対象企業の業種は、「鉱業・建設・製造業」が47%と最も多く、「官公庁、大学機関、研究所等(「それ以外」で集計)」の17%、「研究開発、専門技術サービス業」13%と続く。

調査の結果、新専攻の教育内容(生命科学、食物生産・加工、環境・エネルギー、地域経済・企業経営・行政)に対する関心は極めて高く、その理由として、「社会

において不足している分野の人材を育成してくれそうな大学院だから」、「我が社が求めている人材を育成してくれそうな大学院だから」との回答を 136 社から得ており、このことから企業等が求める人材を養成してくれる専攻であると企業から期待されていることが窺える。更に、調査した企業の内、167 社（約 77%）は、修了生を採用する可能性があるかと答えている。コース別にみると、バイオサイエンスコースの修了生を採用したいと回答した企業等は 57 社あり、食物・ワイン科学コースについては 76 社、地域環境マネジメントコース（旧 環境社会システムコース）については 46 社の企業等が是非採用したい、もしくは採用する可能性があるかと回答している。さらに 76 社の企業等からは「特定のコースではなく、専攻全体に興味がある」との回答があり、各コースだけでなく、専攻全体としてその修了生から採用したいと考える企業等も多く、採用需要も十分期待できる。よって就職等の出口管理の観点からも、入学定員 45 名は問題ないとする。

表 1 修了生の採用意向調査

Q1 生命環境学専攻(仮称)の教育内容(生命科学、食物生産・加工、環境・エネルギー、地域経済・企業経営・行政)についてどう思われますか。			
項番	項目	合計	
1	大いに興味・監視がある	85	39%
2	興味・関心がある	120	55%
3	あまり興味・関心はない	12	6%
4	全く興味・関心がない	0	0%
合計		217	

  

Q2 それは、どのような理由からですか。			
項番	項目	合計	
1	社会において不足している分野の人材を育成してくれそうな大学院だから	96	45%
2	我が社が求めている人材を育成してくれそうな大学院だから	36	17%
3	山梨大学にこれまでなかった分野の教育を行う大学院だから	53	25%
4	その他	30	14%
合計		215	

  

Q3 貴社(あなたがお勤めの事業所)では、将来的に生命環境学専攻(仮称)の修了生を採用する可能性がありますか。			
項番	項目	合計	
1	採用する可能性が大きい	39	18%
2	採用する可能性がある	128	59%
3	採用する可能性は小さい	25	12%
4	その他	25	12%
合計		217	

  

Q4 修了生の採用にあたって、貴社はどのコースから採用されますか。(複数回答可)			
項番	項目	合計	
1	バイオサイエンスコース	57	22%
2	食物・ワイン科学コース	76	30%
3	環境社会システムコース	46	18%
4	特定のコースにではなく、専攻全体に興味がある	76	30%
5	分からない	2	1%
合計		257	

**Q6 貴社の業種は次のどれに該当しますか。**

項番	項目	合計	
1	農・林業	6	3%
2	鉱業・建設・製造	102	47%
3	電気・ガス・水道	3	1%
4	情報通信	12	6%
5	運輸、卸売、小売	9	4%
6	金融、保険、不動産	3	1%
7	研究開発、専門技術サービス	29	13%
8	宿泊、飲食サービス	1	0%
9	生活関連サービス	7	3%
10	教育・学習支援	4	2%
11	医療・福祉	4	2%
12	それ以外	37	17%
<b>合計</b>		<b>217</b>	

## 大学院進学希望調査用説明(3年生対象)

## 【農学・生命環境系大学院の設置について】

山梨大学では、現在、「生命環境学部」に接続する農学・生命環境系大学院修士課程(1専攻3コース)の開設(平成28年4月)に向けて準備を進めています(表1参照)。

本大学院では、「生命環境学部」における教育との接続を重視したカリキュラムにより、これまで身に付けた知識や技術をより実践的に深め、広範な知識と技術をもって多様化・複雑化する現代の諸問題について解決に導くことができる高度専門職業人の育成を目指します。

つきましては、在学中の皆さんの意向を本大学院の開設に反映させたいと考えておりますので、次ページの調査にご協力ください。

表1 農学系大学院の概要

専攻名	コース名	特色と養成する人材像
生命環境学専攻 (修士課程)  「広範な知識と技術をもって人類にとって最も普遍的で重要な課題である「食と健康」や「生命と環境」に関わる諸問題を解決する高度専門職業人の育成を行う」	バイオサイエンスコース	微生物や酵素などの生物機能を産業に応用するために必要な、バイオサイエンスの知識と基盤技術を修得し、さらにそれを医学や環境分野に広げて活用できる高度専門職業人の育成を目標としています。  【具体的な人材例と活躍の場】 再生医療支援人材(細胞培養士、臨床細胞培養士)、不妊治療クリニック従事者(生殖補助医療管理胚培養士)、実験動物技術者、食品系企業の技術者、医薬品開発技術者など
	食物・ワイン科学コース	第6次産業として付加価値の高い食品のあり方を、ワイン産業をモデルとしながら科学的に探求し、食品の原料生産、加工・販売、食の安全まで、食品産業の全体を見渡せ、指導的な立場で活躍できる高度専門職業人の育成を目標としています。  【具体的な人材例と活躍の場】 食品会社(原料調達、加工、販売、流通など)、ワイナリー(ブドウ生産、ワイン製造、販売、流通)、農業高校教員、農業経営、JA、医薬品開発技術者など
	環境社会システムコース	農学を基盤とした文理融合教育によって、「食と健康」及び「生命と環境」に関わる複雑で多様な諸課題に対して「環境・経営」面からアプローチし、それらを解決へと導くことのできる高度専門職業人の育成を目標としています。  【具体的な人材例と活躍の場】 JA、環境コンサルタント、総合商社、食品関連、金融・保険業、エネルギー、環境分析技術者、公務員、企業のCSR部門、SEなど

(注記)設置計画及び専攻名、コース名等は、予定であり変更となることがあります。

大学院進学希望調査票（平成 27 年 2 月 24 日実施）  
生命環境学部 3 年生対象

大学院進学に関して以下のアンケートの質問に回答ください

※ 各質問では、回答項目の数字を 1 つ選択の上、○をつけてください。

学科名：生命工学科・地域食物科学科・環境科学科・地域社会システム学科

Q1 生命環境学専攻の一番興味のあるコースはどれですか。

1. バイオサイエンスコース
2. 食物・ワイン科学コース
3. 環境社会システムコース

Q2 Q1 で回答したコースに進学したいと考えますか。

1. 進学したい
2. どちらかというに進学したい
3. 未定

Q3 Q2 で「1」あるいは「2」と回答した方に伺います。

大学院進学に関しての動機づけとなる一番の理由はなんですか。

1. 興味ある分野の研究をしたい
2. 学部で身に付けた知識・技能を更に深めたい
3. 広い世界で仕事・研究ができる
4. 地元に貢献したい
5. 大学等の教育機関、企業等で研究・開発に携わりたい
6. その他（ )
7. 特に理由はない

以上です。ご協力ありがとうございました。

## 大学院進学希望調査結果のまとめ

Q1 生命環境学専攻の一番興味のあるコースはどれですか。												
学年	項番	項目	生命工学科		地域食物科学科		環境科学科		地域社会システム学科		合計	
			人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
3年	1	バイオサイエンスコース	32	86%	1	3%	2	7%	0	0%	35	28%
	2	食物・ワイン科学コース	1	3%	22	76%	2	7%	2	7%	27	22%
	3	環境社会システムコース	0	0%	1	3%	23	77%	10	37%	34	28%
	4	興味なし(就職・他大学進学等)	4	11%	5	17%	3	10%	15	56%	27	22%
		合計	37		29		30		27		123	100%

Q2 Q1で回答したコースに進学したいと考えますか。												
学年	項番	項目	生命工学科		地域食物科学科		環境科学科		地域社会システム学科		合計	
			人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
3年	1	進学したい	21	64%	10	42%	10	37%	1	8%	42	44%
	2	どちらかというに進学したい	6	18%	11	46%	6	22%	2	17%	25	26%
	3	未定	6	18%	3	13%	11	41%	9	75%	29	30%
		合計	33		24		27		12		96	100%

Q3 Q2で「1」あるいは「2」と回答した方に伺います。大学院進学に関しての動機づけとなる一番の理由は何ですか。												
学年	項番	項目	生命工学科		地域食物科学科		環境科学科		地域社会システム学科		合計	
			人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
3年	1	興味ある分野の研究をしたい	13	48%	4	19%	11	92%	0	0%	28	42%
	2	学部で身に付けた知識・技能を更に深めたい	10	37%	8	38%	3	25%	1	33%	22	33%
	3	広い世界で仕事・研究ができる	1	4%	1	5%	2	17%	0	0%	4	6%
	4	地元で貢献したい	0	0%	5	24%	0	0%	2	67%	7	10%
	5	大学等の教育機関、企業等で研究・開発に携わりたい	1	4%	2	10%	0	0%	0	0%	3	4%
	6	その他	0	0%	1	5%	0	0%	0	0%	1	1%
	7	特に理由はない	2	7%	0	0%	0	0%	0	0%	2	3%
		合計	27		21		16		3		67	100%



## 資料 2

各位

山梨大学新大学院開設準備室  
連絡先 山梨大学企画課  
TEL 055-220-8071

### 山梨大学大学院修士課程「生命環境学専攻（仮称）」設置 に係るアンケート調査

山梨大学は、地域社会の持続的な繁栄を実現するため必要な、生命科学、食物生産・加工、環境・エネルギー、地域経済・企業経営・行政の各分野で活躍できる実践的専門職業人の育成を目指し、平成24年4月に生命環境学部（生命工学科、地域食物科学科、環境科学科、地域社会システム学科）を設置しました。平成28年度に最初の卒業生を送り出すこととなりますが、卒業する学生がさらにその専門性を高めていけるよう、学部へ接続する農学系大学院修士課程「生命環境学専攻（仮称）」の設置に向けて準備を進めています。以下の3つのコースを設定することとしておりますが、これらのコースに対するご要望と修了生に対する採用のご意向等についてお伺いしたいと思っております。このアンケート結果は、大学院設置のための基礎となる大学の内部資料としてのみ用い、それ以外の目的には使用致しません。また貴社およびお答えいただいた個人名を公表することはありません。忌憚のないご意見ご要望をお聞かせいただきたく、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

## 山梨大学大学院修士課程「生命環境学専攻（仮称）」について（概要）

- 山梨県で初めての農学系大学院修士課程で、「生命・食・環境・経営」に関する高度専門職業人を育成します。
- バイオサイエンスコース、食物・ワイン科学コース、環境社会システムコースの3つのコースがあり、生命科学、食物生産・加工、環境・エネルギー、地域経済・企業経営・行政に関して学びます。

各コースの概要は次のとおりです。

### バイオサイエンスコース

微生物や酵素などの生物機能を産業に応用するために必要な、バイオサイエンスの知識と基盤技術を修得し、さらにそれを医学や環境分野に広げて活用できる高度専門職業人の育成を目標としています。

#### 【具体的な人材例と活躍の場】

再生医療支援人材（細胞培養士、臨床細胞培養士）、不妊治療クリニック従事者（生殖補助医療管理胚培養士）、実験動物技術者、食品系企業の技術者、医薬品開発技術者など

### 食物・ワイン科学コース

第6次産業として付加価値の高い食品のあり方を、ワイン産業をモデルとしながら科学的に探求し、食品の原料生産、加工・販売、食の安全まで、食品産業の全体を見渡せる高度専門職業人の育成を目標としています。

#### 【具体的な人材例と活躍の場】

食品会社（原料調達、加工、販売、流通など）、ワイナリー（ブドウ生産、ワイン製造、販売、流通）、農業高校教員、農業経営、JA、医薬品開発技術者など

### 環境社会システムコース

農学を基盤とした文理融合教育によって、「食と健康」及び「生命と環境」に関わる複雑で多様な諸課題に対して「環境・経営」面からアプローチし、それらを解決へと導くことのできる高度専門職業人の育成を目標としています。

#### 【具体的な人材例と活躍の場】

JA、環境コンサルタント、総合商社、食品関連、金融・保険業、エネルギー、環境分析技術者、公務員、企業のCSR部門、SEなど

## アンケートの設問

1. 「生命環境学専攻（仮称）」の教育への期待について」おたずねします（専攻の概要をご参照下さい）。

問1 生命環境学専攻（仮称）の教育内容（生命科学、食物生産・加工、環境・エネルギー、地域経済・企業経営・行政）についてどう思われますか。次の中から該当するものを一つだけ選び、番号に○を付けて下さい。

1. 大いに興味・関心がある
2. 興味・関心がある
3. あまり興味・関心はない
4. 全く興味・関心がない

問2 それは、どのような理由からですか。次の中から該当するものを一つだけ選び、番号に○を付けて下さい。

1. 社会において不足している分野の人材を育成してくれそうな大学院だから
2. 我が社が求めている人材を育成してくれそうな大学院だから
3. 山梨大学にこれまでなかった分野の教育を行う大学院だから
4. その他（具体的に： \_\_\_\_\_ )

問3 貴社（あなたがお勤めの事業所）では、将来的に生命環境学専攻（仮称）の修了者を採用する可能性がありますか。次の中から該当するものを一つだけ選び、番号に○を付けて下さい。

1. 採用する可能性が大きい
2. 採用する可能性がある
3. 採用する可能性は小さい
4. その他（ \_\_\_\_\_ )

問4 修了者の採用にあたって、貴社はどのコースから採用されますか。次の中から該当するものを選び、番号に○を付けて下さい（複数回答可）。

1. バイオサイエンスコース
2. 食物・ワイン科学コース
3. 環境社会システムコース
4. 特定のコースにではなく、専攻全体に興味がある

問5 生命環境学専攻（仮称）の設置について、ご意見・ご要望がありましたらご自由にお書きください。

.....  
.....

2. 「貴社の業種、所在地と従業員規模について」おたずねします。

問6 貴社の業種は次のどれに該当しますか。一つ選び、番号に○を付けて下さい。  
(業種分類は「日本標準産業分類」によります。)

- 1 農・林業 2 鉱業・建設・製造 3 電気・ガス・水道 4 情報通信  
5 運輸、卸売、小売 6 金融、保険、不動産 7 研究開発、専門技術サービス  
8 宿泊、飲食サービス 9 生活関連サービス 10 教育・学習支援  
11 医療・福祉 12 その他(具体的に )

問7 貴社の所在地はどこですか。一つ選び、番号に○を付けて下さい。

- 1 山梨県内 2 山梨県外

問8 貴社の従業員規模は次のうちどれですか。一つ選び、番号に○を付けて下さい。

- 1 10人未満 2 10人以上50人未満 3 50人以上100人未満  
4 100人以上300人未満 5 300人以上

これでアンケートは終わりです。大変お忙しい中、ご協力ありがとうございました。

## 企業向けアンケート集計表

	合計
回答収集数	217
合計	217

**Q1** 生命環境学専攻(仮称)の教育内容(生命科学、食物生産・加工、環境・エネルギー、地域経済・企業経営・行政)についてどう思われますか。

項番	項目	合計	
1	大いに興味・監視がある	85	39%
2	興味・関心がある	120	55%
3	あまり興味・関心はない	12	6%
4	全く興味・関心がない	0	0%
合計		217	

**Q2** それは、どのような理由からですか。

項番	項目	合計	
1	社会において不足している分野の人材を育成してくれそうな大学院だから	96	45%
2	我が社が求めている人材を育成してくれそうな大学院だから	36	17%
3	山梨大学にこれまでなかった分野の教育を行う大学院だから	53	25%
4	その他	30	14%
合計		215	

**Q3** 貴社(あなたがお勤めの事業所)では、将来的に生命環境学専攻(仮称)の修了者を採用する可能性はありますか。

項番	項目	合計	
1	採用する可能性が大きい	39	18%
2	採用する可能性がある	128	59%
3	採用する可能性は小さい	25	12%
4	その他	25	12%
合計		217	

**Q4** 修了者の採用にあたって、貴社はどのコースから採用されますか。(複数回答可)

項番	項目	合計	
1	バイオサイエンスコース	57	22%
2	食物・ワイン科学コース	76	30%
3	環境社会システムコース	46	18%
4	特定のコースではなく、専攻全体に興味がある	76	30%
5	分からない	2	1%
合計		257	

**Q6** 貴社の業種は次のどれに該当しますか。

項番	項目	合計	
1	農・林業	6	3%
2	鉱業・建設・製造	102	47%
3	電気・ガス・水道	3	1%
4	情報通信	12	6%
5	運輸、卸売、小売	9	4%
6	金融、保険、不動産	3	1%
7	研究開発、専門技術サービス	29	13%
8	宿泊、飲食サービス	1	0%
9	生活関連サービス	7	3%
10	教育・学習支援	4	2%
11	医療・福祉	4	2%
12	それ以外	37	17%
合計		217	

Q7 貴社の所在地はどこですか。			
項番	項目	合計	
1	山梨県内	88	41%
2	山梨県外	129	59%
合計		217	

Q8 貴社の従業員規模は次のうちどれですか。			
項番	項目	合計	
1	10人未満	16	7%
2	10人以上50人未満	25	12%
3	50人以上100人未満	21	10%
4	100人以上300人未満	35	16%
5	300人以上	117	55%
合計		214	